

「みどりのカーテン（ゴーヤ）」の育て方講習会

開催日：平成24年5月12日（土）10：00～12：00

場 所：別子銅山記念図書館 多目的ホール

講 師：徳島大学准教授 田村 隆雄氏



講師紹介

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部所属。水文学専攻。平成19年度から徳島県上板町とタイアップし、ゴーヤによる「みどりのカーテン」の効能や問題点の検証を続けられ、各所で研究発表もされている。

東かがわ市在住。

みどりのカーテンは、「農作物」としての育て方とは異なります。「みどりのカーテン」として利用する場合は、『葉』を茂らせ、蒸散作用を活潑にさせるための管理を行います。

肥料は窒素系のものを多く与え、水もしっかり与えます。水以上に大切なのが、追肥です。追肥の時期が重要となってきます。

また、みどりのカーテンには過剰な期待をしないことです。新聞などに、「エアコンを使わずに快適な夏が過ごせました」というような記事が載っていますが、人により「快適」は異なりますので、暑い時は、我慢せずにエアコンを使ってください。それでも、使用時間の減少や冷房効率の向上で、いつもより省エネな夏を過ごすことができます。あと、電気代は抑制できますが、水道代はかかりますし、ゴーヤを上手く育てると消費が追い付かず、処分に困ります。そういったことを踏まえて、皆さんに苗を育てていただければと思います。

「みどりのカーテン」を省エネだけでなく、他にいろいろな面も評価してもらい、夏の終わりに「良かったな。来年もやってみよう」と感想を持って貰えると幸いです。





< 講義風景 >

◆ 聴講者からの質問 ◆

Q.我が家では、毎年、露地に植えているのですが、毎年同じ場所に植えても大丈夫でしょうか？

A.大丈夫ですが、出来ましたら、2・3年に一回は、新しい土に入れ替えて頂くのが望ましいです。



< 講義終了後、質問をするモニター >

Q. るこう草と一緒にゴーヤを植えてもいいのでしょうか？

A. 想像ですが、一緒に植えますと見苦しくなるので、個人的にはお薦めしません。

るこう草は、朝顔と同じで、ネットに巻きついて大きくなります。それに対し、ゴーヤは、ひげが伸びて固定されますので、るこう草がゴーヤの茎に巻きついて、ゴーヤを枯らしてしまう可能性があります。朝顔系と、ウリ系の混植は難しいと思います。

Q.朝顔で「みどりのカーテン」をしています。上に伸びて間が空いてしまうので、何かと混植して間を埋めることはできますか？

A.朝顔・るこう草・風船蔓ともに、上に伸びます。間を埋める、つまり横に広げるためには、横に紐をたくさん垂らし、一本の紐に2・3本の朝顔を巻きつける必要があります。そのため、苗をたくさん植えてはなりません。

やはり、横に広げる場合には、ゴーヤやひょうたんといったウリ系の植物がやり易いと思います。

Q.害虫対策に、石灰をよく撒くのですが、よろしいでしょうか？

A.石灰自体には、土をよくする働きがあるので撒く分にはいいと思いますが、害虫対策に効果があるとは言い切れません。

Q.液肥を与えるのはいいのでしょうか？

A.元気がない時に与える分にはいいです。

Q.コンパニオンプランツですが、どの程度離れたところに置けばいいのでしょうか？

A.すぐそばと一緒に植えてあげてください。



<栽培モニターにお渡ししたゴーヤの苗、温度計、ネット>